

## 東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日  
例会日 毎週月曜日 12:30~  
例会場所 シェラトン都ホテル大阪  
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38  
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号  
TEL. 06 (6772) 2320  
FAX. 06 (6772) 2327  
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会長 切石博之  
会長ノミニー 浅野光男  
副会長 宮崎康治  
幹事 細川勝治  
会報委員長 岡田忠彦

## BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

### 地域を育み大陸をつなぐ

2010~2011年度 国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

第 1791 例会 平成 22 年 12 月 13 日 (月曜日) 第 20 号

#### 本日の例会

12月13日(月) 第2例会

- ◎ソング 「奉仕の理想」
- ◎年次総会
- ◎会長年度末挨拶 会長 切石博之
- ◎本日の献立 寿司盛り合わせ
- ◎12月20日(月)は12月22日(水)クリスマス家族会による振替休会

#### 次回の例会

12月22日(水) 第3例会

- ◎クリスマス家族会  
エプバンタイユ  
17:00 受付開始 17:30 移動例会  
18:00 開 宴
- ◎12月27日(月) 定款による特別休会

#### 前回の例会記録

12月6日(月) 第1例会

- ◎ピジター 大阪東RC 佐々木恭一氏
- ◎ゲスト 米山奨学生 陸光杰君

#### 会長挨拶

会長 切石博之

はや12月、師走ですね。師走とは、一年の早さを思う月であり、来たるべき新しい年に向って用意する月でもあります。今日は細川幹事が戻ってくれてホッとしております。チョット幹事がいないと相談できずに、心細いこともあり、会長幹事とはよきコンビであらねばと思っています。

明後日の12月8日は太平洋戦争が始まった日でありま

す。あの真珠湾攻撃の「ニイタカヤマノボレ」「トラ・トラ・トラ」は多くの日本人に悲劇をもたらす、出発点でもありました。12月7日に生れた歌人の与謝野晶子は、日露戦争のとき弟のことを思い次のような詩を作っています。

「君死にたまふことなかれ」

旅順の城は滅ぶとも 滅びずとも何事ぞ  
君は知らじな商人の 家のおきてになかりけり  
君死にたまふことなかれ すめらみことは  
戦いにおほみづからは出でまされ  
かたみに人の血を流し 獣の道に死ねよとは  
死ぬるを人のほまれとは 大みこころのふかければ  
もとよりいかで思されむ

「東大戦没学生の手記」には

お父さん、三好という中尉が死にました。船の底を(人間魚雷で)もぐりそこねてぶつかったのです。上のハッチから水が入って二時間もして揚げられたときには、すっかりぐにゃんとして、顔は血だらけになって死んでいました。回天艇をひっくりかえして水を抜いたとき、ばかにさび色をした海の水だと思ったのは、その血が大分まじっていたのでしょう。雨もふっていました。その夜、指揮官以下みんながお酒をのんでいました。

戦後生れで戦争を知らない私ですが、戦争は起こしてはならないし、あつてはならないと思います。

今日の俳句は、

ジョンレノンの死をいひ開戦の日とはいわぬ 渡部マサ

#### 幹事報告

幹事 細川勝治

1. 本日例会終了後、第6回定例理事・役員会を5階カト

レアの間で開催致します。理事・役員各位にはよろしく  
お願い致します。

2. 次週 12月13日(月)は例会場が3階「飛鳥の間」  
に変更になりますので、お間違いのないようによろしく  
お願い致します。
3. 他クラブ例会変更及び休会の案内を掲示しています。

## 出席報告

和田委員

本日の会員数	39名
本日の出席者数	28名
本日の出席規定適用免除会員	11名
本日の出席率	80.00%
11月22日の修正出席率	88.89%

## SAAニコニコ箱

大石SAA

細川幹事 例会欠席、すいませんでした。小川副幹事あり  
りがとうございます。  
鈴木会員 先月例会欠席のお詫び。

## 12月お祝

- 入会記念日 出原 福岡(各会員)
- 会員誕生日 湯谷会員
- 夫人誕生日 林 榎代様 宮田千恵子様  
佐藤ひろ子様 大石由美子様  
佐井 厚元様
- 結婚記念日 大石会員
- 創業記念日 林 松浦 岡本(各会員)
- 11月の内祝ニコニコ 累計 452,500円
- 11月のニコニコ箱 49,523円 累計 158,523円

## 卓話 「河内ことば」～寝屋川ことば～

方言、共通語、標準語

(株)寝屋川工作所 代表取締役

吉川 稔様(寝屋川ロータリークラブ)

今までに方言「河内ことば」の幾つかを紹介してきたが、ここで、方言、共通語、標準語について考えてみたい。例えば青森の人と、鹿児島の人がお互いにお国言葉で話し合ったとする。外国人と話しているようで、双方に通じ合いません。そこへ東京の人がやってきて、テレビやラジオで日常聞きなれていることばで話しかけると、容易に理解することが出来るし、三人は自由自在に会話することが出来る。青森と鹿児島の人が最初に話していたのは、それぞれのお国の方言であり、東京の人が来てから使い出したのはいわゆる共通語です。

共通語といえば、まぎらわしい概念に標準語というのがあります。この二つは従来同じものとして扱われてきましたが、最近の方言研究では区別して使っている様です。この点について柴田武先生は「日本の方言」で説明しておられます。いうなれば「共通語」は現に存在する

実像、標準語は部分的には形成されつつあるが、完成までにはほど遠い一つの理想像なのであり、“期待される日本語の未来像”とでも言ったらよいのでしょうか？

オトウサン・オカアサンという言葉があります。日本中に普遍する、そして標準語でもあります。ずいぶん古くからの日本語のように思われていますが、明治以前にはこんな言葉はなく、一般庶民はオトツツアン・オッカーでありました。河内地方ではついこの間までオヤッサン、オトツタン、オカン・オカアチャンでありました。オトウサン・オカアサンという言葉が一般家庭にも普及しつつありますが、河内地方、大阪地方、関西地区にはオトウチャン・オカアチャンが執拗に残っています。

そんな中で、いわゆる都市化現象は方言を駆逐しながら共通語化のプロセスを速めています。しかし、私は方言は根絶されることはないと思っております。

柴田武先生のことばをお借りしたいと思います。「方言は生れついて獲得する、母なることばであるだけに、方言をすっかり引つ込めることはきわめてむずかしい。多くの方はよそゆきの中では共通語、くつろいだ場では方言と、言葉の二重生活をしている。“方言コンプレックス”というものである。これは共通語はいいことば、方言は悪いことばという価値観がかなり根深く行き渡っているからである。しかし、悪いことばであろうがなかるうが、方言なしで日常のくつろぎを得ることはできない」

香具師・的屋・タタキ売りの口上(全国を売り歩くため、共通語が必要であった)が、新世界のジャンジャン横丁で私の18歳の頃(昭和24年)見られたものでした。恐らく関東の人と思われまます。それに対して大阪の、石鱈のタタキ売りの口上、最後の捨てぜりふが河内のシャレ、「今日の客は夏のハマグリやな」、意味は「夏のハマグリは足が速い(くさりやすい)。身くさって、貝くさり、貝くさって、買いくさり」とシャレしています。  
※ 卓話の内容は紙面の都合で要約させて頂きました。

## 2010～2011年度 第6回定例理事役員会議事録

日時 平成22年12月6日(月) 例会終了後  
場所 シェラトン都ホテル大阪 5階 カトレアの間  
出席理事 切石博之 浅野光男 宮崎康治 細川勝治  
林 孝信 西村啓三 小林成共 岩崎史朗  
小川高弘(欠) 松浦永郁 大石忠克  
佐井義昌 計11名

## 決議事項

1. 2月12日(土)IMの件  
\*登録料 会員数(7月1日現在)×7,000円  
全員登録 承認
2. クリスマス家族会の件 承認
3. 新年会開催の件(1月17日) 全員出席 承認
4. 40周年記念行事の件 承認
5. 和田栗会員退会の件 承認